

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-028	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Unravelling the alcohol harm paradox: a population-based study of social gradients across very heavy drinking thresholds. アルコール障害パラドックスの解明: 過剰飲酒の社会的勾配に関する集団研究		
執筆者		
Lewer D, Meier P, Beard E, Boniface S, Kaner E		
掲載誌		
BMC Public Health. 2016 Jul 19;16:599. doi: 10.1186/s12889-016-3265-9.		
キーワード		PMID
過剰飲酒、社会経済的地位、アルコール障害パラドックス		27430342
要 旨		
目的: 複数のカットオフ値を用いて定義した過剰飲酒と社会経済的地位との関連を検討した。		
方法: イングランド人対象の健康調査を用いた。成人集団のうち 51,498 人を横断調査した 2008-2013 年のデータを解析した (平均年齢 51±18 歳、女性 55%)。飲酒量は対象者の自己申告により得た。週当たりの過剰飲酒量のカットオフ値は 4 段階設定し、女性、男性の順にエタノール量として 1) 112g+/週、168g+/週、2) 280g+/週、400g+/週、3) 480g+/週、640g+/週、4) 680g+/週、880g+/週とした。最も飲酒量の多かった 1 日の飲酒量もカットオフ値を 4 段階設定し、女性、男性の順にエタノール量として 1) 48g+/日、64g+/日、2) 96g+/日、128g+/日、3) 144g+/日、192g+/日、4) 192g+/日、256g+/日とした。社会経済的地位は、等価世帯所得、教育歴、職業、隣人の貧困により評価した。ロジスティック解析により、年齢、性別、民族、調査年を調整し、飲酒量と社会経済的地位との関連を検討した。		
結果: ルーチン作業や肉体作業に従事する者は、管理職の者に比べて、カットオフ飲酒量の最も低い飲酒習慣 (女性: 112g+/週、男性: 168g+/週) のオッズ比は低かったが [オッズ比(OR): 0.65, 95%信頼区間(CI): 0.57-0.74], カットオフ飲酒量の最高値を超える過剰な飲酒習慣 (女性: 680g+/週、男性: 880g+/週) が有意に高かった [OR: 2.15, 95%CI: 1.06-4.36]。最低所得者は最高所得者に比べて、週当たりの飲酒量の最も低いカットオフ値の飲酒習慣のオッズ比は低かったが [OR: 0.60, 95%CI: 0.52-0.69]、週当たりの飲酒量のカットオフ最高値を超えた飲酒習慣は高かった [OR: 2.30 95%CI: 1.28-4.13]。		
結論: 社会経済的地位の低いグループでは、高いグループに比べ過剰飲酒の習慣を認めた。これはアルコール障害を説明する一つの要因であると示唆される。		